



『移行支援会議』と卒業後の『支援』について








卒業式まで1か月となりました。小学部6年生、中学部3年生のみなさんは、上級学部への入学に期待を膨らませていることと思います。高等部3年生は、いよいよ学校から社会へと巣立つ日が目前に迫り、社会生活への大きな期待と、新生活への不安もあるのではないのでしょうか。今回は、『移行支援会議』と卒業後の『支援』についてご説明します。



『移行支援会議』 高等部3年の2月～3月に、学校主催で実施します。

〈目的〉

- 卒業後の本人および保護者を支援する関係機関による支援ネットワークを形成する。
 …本人の社会生活を支える関係機関に参加していただきます。

<p>本人、保護者</p> 	<p>進路先(人事担当・支援員等)</p> 	<p>相談支援事業所</p> 	<p>学校(高3担任、進路指導部)</p> 
<p>サービスを提供する福祉事業所 (行動援護、移動支援、日中一時支援、ショートステイ 等)</p> 	<p>就労や生活を支援する機関 (障害者職業センター、ジョブコーチ、障がい者就業・生活支援センター)</p> 	<p>その他 (医療機関、行政(障害福祉課)、放課後等デイサービス 等)</p> 	

- 学校生活から社会生活への移行がスムーズに行えるように、支援内容や方法、役割分担を確認する。
 …学校が作成する「移行支援計画」をもとに会議を進めます。本人をよりよく知ってもらい、必要な支援や方法を共通理解したり、就労生活にむけた具体的な手続き等についての説明を聞いたりすることで、安心して新生活を迎えるための準備をします。
- 卒業後の生活全般について、本人の願いを実現していくために必要なサービスなどの情報交換を行う。
 …希望する将来の生活を実現するために必要な準備や、余暇時間を充実させてより豊かな生活を営むために必要な支援など、本人や保護者の願いを確かめ、希望を実現するために利用できるサービス等についての情報交換と、今後のサポートについて話を行います。

卒業後の『支援』について

卒業	2～4ヵ月	6ヵ月	1年3ヵ月	2年	3年	3年6ヵ月
学校	<p>追支援期間（3年間を基本とする） ＊各事業所が中心となって支援を行い、学校は、事業所および本人・保護者の要請に応じて相談又は支援を行う。 ＊一般就労については、職場定着の状況を3年間確認する。</p>					
就労移行支援	<p>就労に向けた訓練（最大2年間） および 就労支援</p>				<p>定着支援</p>	<p>＊努力義務</p>
障害者職業センター (ジョブコーチ支援)	<p>集中支援期 移行支援期</p>	<p>フォローアップ (1年間)</p>				
障害者就業・生活支援センター	<p>就労開始以降、まずは 1年間の定着率を重視</p>		<p>その後も、期間・内容に定めはなく、 必要に応じて随時支援を受けられる</p>			
相談支援事業所	<p>機関に定めはなく、福祉サービスを利用する際の手続きやモニタリング会議の開催などを随時行う。</p>					